

ひまわり (月刊) 第一号第六号
定価: 5圓(〒2.00)
昭和二十二年八月二十五日印刷
昭和二十二年九月一日発行
編集人 中原淳一
発行人 中原啓一
印刷人 大橋芳雄
直接購読料(概算)
一年 300圓
送料 24.00
(一年分)
印刷所 共同印刷株式会社
東京都文京区久野町一〇八
発行所 ひまわり社
(会員番号A208031)
東京都千代田区神田保町三の三
編集所 ひまわり編集部
東京都文京区高田豊川町三
郵送元 日本出版配給株式会社

昭和22(1947)年9月1日[8・9月合併号]中原著二発行。巻頭。



コム・マメール

—わが母の如く—

芹沢光治良

もう二十年も前のことである。第一次世界大戦後数年たつて、フランスが今日の日本のように、インフレーションと社会不安に苦しんでいる時、私はパリ大学で勉強していたことがある。その頃、私は親しいフランスの少女達に、きまつてきいてみた。

「大きくなつたら、なにになりますか」と。
なぜ最初そんな質問をする氣になつたのか、動機は忘れたが、その頃私のところに女の子が産れて、フランス人の家庭にあづけたので、その赤ん坊の將來についていろいろ考えたことから、そうきいて見たのがはじまりだつたかも知れない。しかし、そうきいてみて、返事が面白かつたので、次第に親しい家の少女達に、誰にも同じ質問をしたような氣がする。

「この頃は、どの少女も異口同音にはづかしがらずに、先づ、「コム・マメール(私のお母さんのように)」と、答えるのだつた。

將來お母さんのようになりたい——と、ためらうことなく答えられるフランスの少女達は、如何に倅せであらう。その言葉のなかには、母に対する愛情とともに、尊敬がふくまれていたが、また、母に対する感謝が鳴り響いてもいた。娘にそう云はれて、恥づることのないフランスの母達は幸福であらうと、私はつくづく思つた。

お母さんのように——と答へただけでは、足りなくて、それから、科学を勉強してみたいとか、地理の勉強をするつもりであるとか、文學をするのだとか、どの少女も具体的にこまかに話すのだつた。

私の大学のクラスにも、女の大学生が多かつた。男の大学生よりも多いくらいであつた。大学の偉い博士の研究室で、私は研究させてもらつたが、そこにも若いフランスの娘がいた。いつしよに勉強していると、親しい友達になつたが、「大きくなつたら何になるか」とは、もうこの人々にはきけなかつた。しかし、次第にその家庭をも知るようになってみると、その人々も少女達のように、「わが母の如く」なろうと努力していることがすぐ分つた。母に対する愛情や尊敬が、ごくつまらないことにもあらはれたから。

大学でも研究室でも、論文を書かなければならぬが、先づ読んでもらうのがお母さんであり、お母さんの意見にしたがつて論文を訂正していた。大学の卒業試験で、口述試験にはお母さんが必ず傍聴するので、試験勉強をするのだと云つていた娘さんもある。

日本へ歸つて、私の子供が大きくなるにつれて、私はフランスの少女達にした質問を、日本の少女達にもしてみようになつた。

「大きくなつたらなにになりますか」と。
しかし、日本の少女達はフランスの少女達のように、すぐ答えてはくれない。数人いる場合には、たがいに顔を見合せて、くすくす笑うが、希望も意見も述べない。そして、私がいなくなると、べちゃくちゃそのことでおしゃべりを初めるのが普通である。

そして、自分のお母さんのようになりたいという者は殆どなく、強いてきけば、お母さんのようになりたいくないと、答える者が多いようである。なんと悲しいことであらう。そう答える少女も不幸であるが、そのお母さんも不幸であり、少女達がそう答えるというところに、日本の不幸があつたように考えられる。日本の少女もお母さんに愛情を持たないのではないが、尊敬しないからであらうか。

皆さんも新憲法が公布せられ、民法の改正があつて、女性が解放せられたというようなことを、恐らく聞いたことであらう。

実際、日本では長い長い間、女性の社会的な地位が低く、女性は家庭でも、社会でも、目立たない仕事をしていて、むくいられることがすくなかつた。才能があつても、女性なるが故にそれをのばすこともできず、向学心にもえても、男性のように学問の門もひらかれていなかつた。ただ忍従の生活をしなければならなかつた。こうした不幸な女性の生活を、日本の少女達が眞近く見るのが、自分の母親の生活であるから、お母さんのようになりたくない、自然に感ずるようになったのではなからうか。

しかし、不幸な敗戦の結果、日本の女性も社会的にはフランスの女性と同じような地位におかれたのである。皆さんもこのところ、男女同権になつたとか、男女共学になつたとか、いろいろのことを聞いたであらうし、また、そうした経験もしたのであらうが、これは皆さんがまだその意味がほんとうには理解できないほど、女性にとつてすばらしい重大なことである。それは、日本の女性も、男性とともに、日本の將來を背負つてたなければならぬ責任と誇りとを、公にみとめられたことである。

こんな風に公にみとめられた女性の地位を、これから皆さんの力で、名実ともにそなわつたものにしなければならぬ責任を、皆さんは持つてゐる。それには、皆さんが將來母となつた時に、皆さんの娘達から、コム・マメールと、理想的な女性としてあがめられるようになるように、今から努力しなければならぬと思う。